

令和4年度
第1回みと好文カレッジ運営審議会

日 時 令和4年7月20日(水)
午後2時00分～
場 所 水戸市総合教育研究所
2階 研究室5・6

みと好文カレッジ

【次 第】

1 開 会

2 委嘱状交付

3 生涯学習課長あいさつ

4 自己紹介

5 委員長・副委員長の選出

6 議 題

- (1) 令和4年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策について
- (2) 令和4年度水戸市市民センター運営方針及び重点目標について
- (3) 令和4年度みと好文カレッジ事業実施計画について
- (4) その他

7 閉会

(1) 令和4年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策について

1 運営方針

生涯学習都市宣言を踏まえ、水戸市生涯学習推進基本計画（第4次）に基づく施策を推進するため、全市的な生涯学習の総称である「みと弘道館大学」の開催を通して、どのような状況下でも学びを止めることなく、少子・高齢化、高度情報化、地域社会における連帯感の欠如や家庭の教育力の低下等の現代的課題を解決するための学習機会を提供するとともに、学習成果を地域活動やまちづくりに生かしていくための環境づくりを進める。

また、市民の生涯学習活動の振興を図るため、社会教育活動における基礎的なことからより専門的・実践的な知識や技術について、市民センター職員の力量を高める研修の機会を充実させるとともに、多様化、高度化する市民のニーズに応えるため、市民センターとの連携を強化しながら、時代の新たな課題に対応した学習プログラムの開発を進めるなど、市民センターへの支援・指導を強化する。

2 主要施策

(1) 市民センターへの支援・指導

ア 東湖塾の開催

市民センター職員に、生涯学習の基礎となる社会教育の知識を深める研修や家庭教育の支援の強化など、専門的・実践的な知識、技術を身につけ、職員の力量を高めるための研修会を開催する。

さらに、多様化、高度化する市民のニーズに応えるため、市民センターとの連携を強化しながら、現代的課題解決に向けた学習プログラムを研究・開発し、時代に合った新しい講座を先進的な市民センター講座として提案する。

- (ア) 新任職員研修（集合研修，訪問研修）
- (イ) 全体研修（集合研修，ブロック研修，訪問研修）
- (ウ) 学習プログラム作成研修（ブロック研修，訪問研修）

イ 好文塾の開催

東湖塾の学習プログラム作成研修等において研究・開発された現代的課題を取り扱った企画講座が市民センター事業として根付くよう、市民センターとみと好文カレッジの共同事業として位置づけ、市民センターにおける開催を支援する。

- (ア) 市民センター職員（ブロック単位）とみと好文カレッジ職員で企画した学習講座の開催
- (イ) 市民センター職員（単独）とみと好文カレッジ職員で企画した学習講座の開催

ウ 市民ニーズに対応した学習機会の提供

市民の学習ニーズの把握に努め、「個人の要望」や「社会の要請」に応じた学習をバランス良く提供できるよう市民センターの支援を行う。

- (ア) 市民ニーズを捉えた学習機会の提供
- (イ) 市民センター事業の現状と課題の調査

エ 事業評価の推進

講座や事業に参加した市民が日常生活の中で学習の成果をどのように生かしているのか、また、地域の中でどれだけ活動に関わっているのかなど、事業の成果を検証することが求められている。そのため、市民センターにおいては、実施した講座や事業の自己評価を行うとともに、市民センター運営審議会等による自己評価に基づいた第三者評価を行い、より効果的な事業運営を進められるよう事業評価を推進する。

また、みと好文カレッジ等による事業評価制度の手法について検討を進める。

- (ア) 市民センターによる自己評価の実施
- (イ) 市民センター運営審議会委員による第三者評価の実施
- (ウ) みと好文カレッジによる事業評価制度の導入

(2) 全市的な生涯学習の推進

ア みと弘道館大学の開催

急激な社会の変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために人々が学習する必要のある課題、いわゆる現代的課題の解決に向けた学習講座を市民に提供するとともに、学んだ成果がまちづくりや人づくりに生かされるよう内容の充実を図る。

また、時代に合った講座や「水戸市生涯学習サポーター」との協働による先進的な学習プログラムを市民に提供する。

- (ア) 茨城しぐさ
- (イ) 水戸市生涯学習サポーター協働企画講座

イ 子育て応援塾の開催

家庭の教育力の向上を図るため、親としての役割や子どもとのコミュニケーションの取り方を考え、見つめ直す機会を提供する。

- (ア) 家庭教育講座
- (イ) 家庭教育出前講座

ウ 生涯学習サポーターチャレンジ講座「さきがけ塾」の開催

生涯学習活動を通し、市民と行政とのまちづくりを進めるため、市民生活を豊かにする学習プログラムの企画・実施に参画する人材（水戸市生涯学習サポーター）を育成する。

エ 「水戸市生涯学習サポーター」活動の推進

市民と行政との協働企画講座の企画・実施への参画をはじめ、「さきがけ塾」での学習成果を生かした活動を推進する。

オ パイロット事業の開発・研究

現代社会の課題や人づくりをテーマとしたもの、ICT等の新しい技術を活用した講座など、先進的な講座を開発・研究し、開発した講座を各市民センター等の社会教育施設や地域団体でも実施できるよう支援する。

カ ほっとひといき夢らんどの開催

家庭教育支援事業の一環として、2歳から3歳未満までの幼児とその父親を対象に、親子で活動する場と親同士、運営ボランティアとの情報交換の場を提供することによって、楽しみながら子育てができるよう支援する。

キ 「あなたも師・達人制度」の活用促進

「あなたも師・達人制度」の登録指導者の募集や活用を広報「みと」やホームページ、情報誌などの各種広報媒体により周知を図るとともに、市民センター等の社会教育施設やPTA、ボランティア団体、NPO等が主催する講座や研修会の講師として積極的に紹介し、登録指導者の有効活用を促進する。

ク 育児ボランティア制度の活用促進

子育て中の保護者が生涯学習活動に参加できるよう、講座開催中に別室で子どもを預かる「育児ボランティア制度」の活用促進と登録ボランティアの拡充を図るため、市民センター等の社会教育施設や社会教育関係団体に積極的に紹介し、制度の有効活用を促進する。

ケ 学習情報の提供の充実

生涯学習活動を推進するため、みと好文カレッジ事業等を掲載した生涯学習情報誌の発行や新しい情報のホームページへの掲載など、生涯学習活動を積極的にPRする。

コ 学習相談事業の充実

市民やボランティア団体等からの生涯学習相談に対し、適切で役立つ助言ができるよう、各種生涯学習情報の収集と整理を行う。

サ 国・県・他市町村・企業・NPO等民間非営利団体・教育機関との連携の推進

国や県・他市町村との連携を図り、相互の生涯学習に関する情報を共有化するとともに、企業・NPO等民間非営利団体・教育機関と連携し、それぞれが持つ人的・物的資源の活用を図る。

シ 水戸市訪問型家庭教育支援事業の拡充

地域人材を活用した家庭教育支援員を派遣し、家庭でのしつけなどに悩みを持つ保護者への個別訪問等の拡充を図る。

(2) 令和4年度水戸市市民センター運営方針及び重点目標について

運 営 方 針

近年、人口減少社会や超高齢社会の到来をはじめ、都市化の進展、価値観の多様化、生活圏の拡大など、市民を取り巻く状況は大きく変化している。

こうした状況にあっても、市民が安心して暮らし、幸せを感じられる豊かな地域を形成していくためには、今後ますます地域コミュニティ活動と生涯学習活動の推進が必要となる。

市民センターにおいては、コロナ禍における感染症対策を徹底した上で、地域コミュニティ活動の拠点として、その継続や発展に向けた支援に努めるとともに、生涯学習活動の拠点として、その充実や成果を生かす環境づくりに努める。また、東日本大震災や令和元年東日本台風での経験を踏まえ、地域防災活動の拠点としての機能充実を図っていくものとする。

重 点 目 標

1 地域コミュニティ活動の推進

(1) 地域コミュニティ活動の活性化

ア 地域自らが地域の将来像や課題を共有し、特色のある地域づくりや課題の解決を進めることができるよう、地域コミュニティプランの実現に向けた取組への支援を促進し、住みよいまちづくり推進協議会を中心とした自主的な活動を推進する。

イ 各種コミュニティ団体等の活動を支援するとともに、NPO等との連携を促進しながら、よりよい地域づくりに向けた情報の共有化を進めるなど、地域コミュニティ推進体制の充実、連携強化を図る。

ウ 町内会・自治会への参加意識や自治意識の高揚を図るため、地域団体や関係機関と連携強化を図り、地域コミュニティ活動内容を積極的に発信するとともに、地区会の基盤である町内会・自治会の加入率の向上に努める。特に水戸市住みよいまちづくり推進協議会との協働により、「みと町内会・自治会カード」事業の更なる魅力の向上を図る。

エ 市民自らが意欲を持って地域活動に参加できるよう、一人一役運動を進めるほか、人材育成のための研修会を通して、地域を支えるリーダーづくりを推進する。

(2) 地域コミュニティ活動環境の充実

市民センターにおける様々な活動環境の一層の充実に向け、施設の利用状況や地域の実情等にあわせたコミュニティルームの積極的な利用を促進するとともに、長寿命化型改修の実施及び施設の利用者数や周辺状況等を踏まえつつ狭あい駐車場の解消に努める。

(3) 地域防災活動との連携

災害発生時の初動対応については、地域における防災組織が重要な役割を担うものであることから、平常時より、地域での防災訓練への支援、地域における災害リスクや連絡体制の確認を行うなど、地域における防災組織との連携を図る。

2 生涯学習活動の推進

(1) 学習機会の充実

生涯学習活動の拠点施設である市民センターにおいては、どのような状況下でも学びを止めることなく、「個人の要望」する学習による生きがいを進めるとともに、家庭教育への支援や青少年の健全育成、少子・高齢化への対応などの「社会の要請」に応じた現代的課題を取り扱った学習機会を提供する。

そのため、水戸市における生涯学習事業を総称した「みと弘道館大学」に位置付けた、一般教養講座や定期講座を開催するとともに、みと好文カレッジにおける事業を活用しながら、市民のライフスタイルに定着し、生涯にわたって学び続けることができるよう、学習機会の充実に努める。

ア 市民ニーズを捉えた学習機会の提供

市民の学習ニーズを把握し、健康で生きがいのある充実した人生を送ることができるよう、生涯学習のきっかけづくりを図るとともに、それぞれの世代に合った学習機会の提供に努める。

イ 現代的課題を取り扱った講座の開催

変化の激しい社会情勢に対応していくため、成人学級、高齢者学級等の講座に現代的課題を取り扱ったテーマを組み入れるなどの手法により、地域課題を主体的に捉える学習機会の充実に努める。特に、デジタル・ディバイド解消のため、高齢者等に向けたICTリテラシーを身につける講座の充実に努める。

また、地域団体と市民センターが一体となった協働事業を積極的に展開する。

ウ 家庭教育や子育てを支援する講座等の開催

家庭は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、思いやりや善悪の判断、自立心や自制心、社会的なマナーなどを身につける上で重要な役割があることから、家庭教育について考える機会を提供するため、学校等における家庭教育学級や家庭教育講演会を開催する。

また、未就園児の保護者が家庭教育について学び、各家庭が家庭教育に自主的に取り組むことができるよう支援するため、家庭教育強化事業を実施する。

(2) 学習の成果を生かす環境づくり

生涯学習の成果がボランティア活動や地域づくりに生かせるよう、地域人材の発掘・育成を行い、地域の活性化や特色あるまちづくりに生かしていくための環境づくりを進める。

ア 地域資源の活用推進

市内には、歴史的な資産や史跡をはじめ博物館、歴史館などの文化施設、学校や大学などの物的資源やそれぞれの施設に所属する職員などの人的資源があり、豊かな地域資源に恵まれている。このような地域にある資源を活用した事業を開催するとともに、生涯学習の振興に取り組む機関や団体との連携を図りながら、地域資源の有効活用を推進する。

イ 学習の成果を発表する場の創出

市民センターを会場に開催している講座の展示会や発表会など、生涯学習の成果を発表する場を創出することにより、学習者同士や参加者との交流を拡大させ、新たなネット

ワーク構築に努める。

ウ 学習の成果を地域活動に生かす仕組みづくり

生涯学習の成果をボランティア活動や地域活動に生かすことが、地域の活性化に大いに役立つものと期待されている。市民センターで学んだ市民が、その成果を地域コミュニティ活動につなげられるよう、人材の育成と活用に努める。

エ 事業評価に基づく事業の推進

市民センターの講座や事業に参加した市民が日常生活の中で生涯学習の成果をどのように生かし、また、地域の中でどれだけ活動に関わっているのかなど、事業の成果を検証することが求められている。

市民センターにおいては、実施した講座や事業について自己評価を行うとともに、自己評価をもとに、運営審議会等第三者機関による検証を行い、効果的な事業運営を図る。

(3) 家庭・地域・学校の連携の強化

家庭・地域・学校が目標や課題を共有し、それぞれが連携して対応策について取り組む体制を構築し、地域社会全体の教育力の向上を図ることができるよう、市民センターにおいては、それぞれをつなぎ結ぶ地域拠点施設としての機能充実に努める。

ア 次代を担う子どもたちの「生きる力」を育む

地域、学校と連携を図りながら、様々な形で異なる世代での交流や大人と接する事業など、子どもたちが地域活動に参加する場を提供し、地域社会全体で次代を担う子どもたちの「生きる力」を育む活動の推進に努める。

イ 社会全体で支える家庭教育

子どもたちが健全に成長していくためには、良好な家庭環境や社会環境を整える必要がある。そのために、家庭の教育力の向上だけでなく、地域の人的資源を子育て支援事業や学校活動支援事業に活用し、家庭教育を地域社会全体で支える仕組みづくりに努める。

(3) 令和4年度みと好文カレッジ事業実施計画について

1 市民センターへの支援・指導

(1) 東湖塾

令和4年度予算額 30千円(報償費)

市民センター職員に生涯学習の基礎となる社会教育の知識を深める研修や専門的・実践的な知識、技術を身につけ、職員の力量を高めるための研修会等を開催する。

さらに、現代的課題解決のための学習プログラムの研究・開発を行うとともに、多様化、高度化する市民のニーズに応え、時代にあった新しい講座を発掘し、先進的な市民センター講座として提案する。

研修方法は、一堂に会する「集合研修」と各市民センターへ出向く「訪問研修」を取り入れる。

ア 新任職員研修

市民センターに人事異動により新たに着任した者や新規採用者を対象に、市民センター職員として事務事業を遂行するための基本的知識を身につける。

(7) 集合研修

- 対象者 令和4年度新任市民センター所長及び新任会計年度任用職員 11名
- 参加者 総数 16名
- 日 時 4月13日(水) 午前10時～午後3時30分
- 会 場 本庁舎4階中会議室4
- 内 容

内 容	説明者
市民センターについて	市民生活課副参事
地域防災について	防災・危機管理課課長補佐
生涯学習の推進について	みと好文カレッジ所長
電送窓口関係について	市民課窓口第1係長

(4) 訪問研修

- 対象者 ①令和4年度新任所長及び新規採用会計年度任用職員9名
②社会教育事業担当職員 前期：1名、後期：25名(予定)
- 日 程 前期(6月)、後期(10月～12月)各期、対象者を各1回訪問
- 内 容 ①市民センターの運営について
②生涯学習の推進について

※計画訪問のほか、市民センターからの要請を受け、随時、実施する。

イ 全体研修

市民センター職員として、生涯学習の中の社会教育事業を推進していくための基礎知識の習得や事業の企画立案の進め方等、職員の支援にあたる。

(7) 集合研修「第1回市民センター職員研修会」

- 対象者 市民センター会計年度任用職員
- 日 時 7月27日(水) 午後2時～4時
- 会 場 水戸市総合教育研究所2階 研究室5・6
- 講 師 NPO法人 男女共同参画おおた 理事長 坂田 静香
- 内 容 人が集まる講座とチラシの作り方について

※講師がZoomによりリモートで講義を行うオンライン研修

(イ) 集合研修「第2回市民センター職員研修会」

- 対象者 市民センター職員（所長又は会計年度任用職員）
- 日 時 ①8月4日（木）午後1時30分～4時30分
②8月19日（金）午後1時30分～4時30分
- 会 場 ①見和市民センター
②上大野市民センター
- 講 師 一般社団法人 水戸地区救急普及協会
- 内 容 普通救命講習Ⅰ

(ウ) 集合研修「市民センター所長研修会」

- 対象者 市民センター所長
- 日 時 ①10月7日（金）午前10時～12時
②10月21日（金）午前10時～12時
- 会 場 本庁舎2階 大会議室
- 講 師 NPO法人 セカンドリーグ茨城 理事長 横須賀 聡子
- 内 容 ファシリテーション入門

(イ) ブロック研修「意見交流会」

- 対象者 ①北部ブロックの会計年度任用職員
②常澄ブロックの会計年度任用職員
- 日 時 8月～9月を予定（2時間程度）
- 会 場 ①国田市民センター
②稲荷第一市民センター
- 内 容 市民センターにおける生涯学習事業等を進める上で疑問に感じている事について、同じ業務に携わる会計年度任用職員が一堂に会し意見交換を行うことにより、ブロック内職員の交流を深め事務の効率化を図る一助とする。

ウ 学習プログラム作成研修

社会教育事業に従事する職員として、高度で多様化した住民のニーズに対応するため、専門的・実践的な知識や技術を身につけ、地域住民に様々な学習の機会を提供する必要がある。

そこで、市民センターの職員を対象に、現代的課題や地域課題の見出し方や課題解決のための学習プログラム作成に関する知識や技術を習得することを目的とする。

- 対象者 東部ブロックの会計年度任用職員。
なお、研修を希望する個別の市民センターにも対応する。
- 日 程 6月～8月（4回程度実施予定）
- 会 場 城東市民センター
- 内 容 同じブロックの職員が共同で地域課題の整理や学習プログラムのテーマを選定し、ブロック内の地域住民を対象とした講座を企画・実施する。

(2) 好文塾

令和4年度予算額 242千円（報償費、賃借料等）

東湖塾で研究・開発された現代的課題を取り扱った学習プログラムの作成企画講座が、市民センター事業として根付くよう「好文塾」と名づけ、市民センターとみと好文カレッジとの共同事業として開催する。また、作成した学習プログラムが全ての市民センターにおいて取り組めるようモデル事業として位置づけ、市民センター活動を支援する。

東部ブロック好文塾

- 対象者 東部ブロック内住民
- ※日程等については現在調整中。

2 全市的な生涯学習の推進

(1) みと弘道館大学の開催

令和4年度予算額 895 千円（報償費等）

急激な社会の変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために人々が学習する必要がある課題、いわゆる現代的課題解決に向けた学習講座を市民に提供するとともに、学んだ成果を生活の充実や向上に活かされるよう内容の充実を図る。

また、時代にあった講座や「水戸市生涯学習サポーター」との協働による学習プログラムを市民に提供する。

ア 茨城しぐさ

「相互扶助」や「共生」の精神を学び、「お互いが仲良く、気持ちよく生活する」ための方策を考えることにより、規範意識の向上と良好な人間関係を築く一助とすることを目的とする。

○対象者 小学4年生から中学3年生及びその保護者（学校単位で実施）。

○日 程 令和5年2月末日まで随時

○講 師 NPO法人 ひと・まちねっとわーく

○内 容 授業参観，PTA研修会，総合的な学習の時間等，希望があった場に講師の派遣を行い，ロールプレイや講義を通して人付き合いの心構えを学ぶ。

イ 水戸市生涯学習サポーター活動の推進

人材育成講座「さがけ塾」の修了生が水戸市生涯学習サポーターに登録し、みと好文カレッジとの協働企画講座や、市民センターとの協働企画講座を市民に提供する。

なお、現在の登録者数は、第1期生から第6期生までで59名。

【生涯学習サポーター企画講座】

グループ	テーマ・内容
1	歴史…歴史の中の女性（仮）
2	健康…高齢者の心身活性化（仮）
3	健康…若返りを目指す（仮）
4	家庭教育…子ども関係（仮）

※内容、日程については現在調整中。

【市民センターとの協働企画講座】

	テーマ・内容	講師	市民センター（会場）	開催予定日
1	次世代に伝えたい あの日のこと ～家族で平和について話し合ってみませんか～ ・戦争の紙芝居「茂木貞夫物語」の上演 ・茂木貞夫さんのお話	次世代に伝えたい朗読と紙芝居のオリープ 被爆体験者 茂木 貞夫	見和市民センター	7月21日
2	満蒙義勇軍について ・満蒙義勇軍に関する紙芝居の上演 ・満蒙開拓幹部訓練所の見学	次世代に伝えたい朗読と紙芝居のオリープ	内原地区の市民センターを予定 ※会場は満蒙開拓幹部訓練所を予定	10月～11月

※2については現在調整中。

(2) 子育て応援塾の開催

令和4年度予算額 417 千円（報償費等）

家庭の教育力の向上を図るため、子育てに関する講座や学習機会を提供する「子育て応援塾」を開催する。

ア 家庭教育講座

子育てを控えた親や子育て中の親等が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩みを吐露できる場を提供するとともに、体験学習をとおして、親としての役割や子どもとのコミュニケーションについて考えることにより、家庭における教育力の向上を目指す。

- 対象者 市内在住または在勤で子育てに関心のある 16 歳以上の方（子育て中の方を優先）
- 定員 30 名 ※応募者多数の場合は抽選により決定
- 日時 11 月 12 日（土） 午前 9 時 30 分～11 時 30 分
- 会場 水戸市総合教育研究所
- 講師 コミュニケーションインストラクター
中島 由佳子
- 内容 グループディスカッションやロールプレイング等の体験学習をとおして、親と子がお互いを大切にしながら日々を過ごすための方法を学習する。

イ 家庭教育出前講座

保護者が家庭教育の重要性を改めて認識し、子どもたちが家族の触れ合いを通じて、「生きる力」を育めるよう、講師が幼稚園等に出向き、家庭教育に関する講座を開催する。

- 対象者 私立幼稚園，認定こども園，民間保育園の保護者等
※現時点での申込園 1 園（すずらん石川保育園）
- 会場 各私立幼稚園，認定こども園，民間保育園
- 講師 ① 朗読家 見澤 淑恵
② 心理カウンセラー 中島 由佳子
③ NPO法人 ひと・まちねっとわーく事務局次長 綿引 均
- 内容 ① 「未来の扉をひらく絵本の読み聴かせ」
朗読・読み聴かせの専門家である講師から、効果的な読み聴かせの方法や絵本がもつ間接体験の意義等を学ぶ。
② 「子どもの心のケアに役立つコミュニケーション」
グループディスカッションやロールプレイング等の体験学習をとおして、子どものストレスや不安にどう関わればよいのか、子どもの心のケアについて学ぶ。
③ 「生きる力を育てる子育て 10 カ条」
昔の子育ての知恵から家庭教育の大切さを学ぶとともに、グループワークにおいて親の役割について意見交換し、「my 子育て 5 カ条」を考える。
- 日程 令和 5 年 2 月 24 日（金）まで随時

(3) 「さきがけ塾」の開催

令和4年度予算額 623 千円（報償費，賃借料等）

生涯学習活動をとおし、市民と行政とのまちづくりに携わる人のために「さきがけ塾」を開催する。塾では市民生活を豊かにする学習プログラムを考え、実施に向けた方法を探り、行政が主催する講座の企画・実施に参画する人材の確保を図る。

第七期「さきがけ塾」

- 対象者 生涯学習や学習プログラムの作成に関心のある市民

- 期 間 令和4年1月～令和5年3月（1年3カ月）
- 回 数 理論編22回（月1～2回，水曜日 午後6時30分～8時30分），
実習編4回，実践編4回程度
- テーマ 持続可能な社会に向けたまちづくり・ひとづくり
- 募集人数 15名（参加人数13名）
- 会 場 五軒市民センターほか
- 内 容
（理論編）

回	開催(予定)日	学 習 内 容	講 師
補講	4月13日	魁のまち，水戸を目指して	水戸市政策企画課
7		水戸の防災を学ぶ	水戸市防災・危機管理課
補講	4月20日	ファシリテーターになろう	NPO法人 セカンドリーグ茨城 理事長 横須賀 聡子
8	4月27日	美しい街，水戸を目指して	水戸市都市計画課
9	5月11日	水戸の歴史を学ぶ	水戸市教育委員会歴史文化財課
10	5月25日	学習プログラムづくり実践の 手法	元学校長 比留間 範之
11	6月8日	学習プログラムづくり①	
12	6月22日	学習プログラムづくり②	元学校長 比留間 範之 水戸市生涯学習サポーター 綿引 均， 小平 文和
13	7月13日	学習プログラムづくり③	
14	7月27日	学習プログラムづくり④	
15	8月3日	チラシづくりに挑戦	水戸市生涯学習サポーター 見澤 淑恵
16	8月24日	学習プログラムづくり⑤	元学校長 比留間 範之 水戸市生涯学習サポーター 綿引 均， 小平 文和
17	9月14日	受講者側に立って学ぶ 『紫芳の字手紙講習会』	紫芳の字手紙認定講師 寺門 忍
18	9月28日	学習プログラムづくり⑥	元学校長 比留間 範之 水戸市生涯学習サポーター 綿引 均， 小平 文和
19	10月12日	学習プログラムづくり⑦	
20	10月26日	アンケートづくりの実践	水戸市生涯学習サポーター 小平 文和
21	11月2日	ためして合点！プレゼンテー ション	元学校長 比留間 範之
22	11月16日	記念講演	弘道館主任研究員 小坏 のり子

※4月13日に第7回と併せて実施した補講は，新型コロナウイルス感染症拡大により，市有施設の夜間利用が中止となったため，2月16日に開催中止となった第4回分。
 ※4月20日に実施した補講は，上記と同理由により2月2日に開催中止となった第3回分。

【参考】これまでのテーマ（平成22年10月～）

- 第一期 子育て支援コース・地域支援コース
- 第二期 粋な幸齢期コース・暮らしと環境コース
- 第三期 社会の宝（子ども）育成コース・縁がつなぐコミュニティコース
- 第四期 参画と協働のひとづくり・まちづくり
- 第五期 参画と協働のひとづくり・まちづくり
- 第六期 元気な明日を目指す水戸のまちづくり・ひとづくり

(4) 「さきがけ塾」塾生との協働企画講座 令和4年度予算額 160千円（報償費等）

市民と行政との協働による学習講座の企画・実施に携わる「水戸市生涯学習サポーター」を目指し、「さきがけ塾」第七期生のテーマ『持続可能な社会に向けたまちづくり・ひとづくり』を学んだ受講生が、学習の成果として作成した講座を市民に提供する。

第七期は、「介護・高齢者」グループ、「歴史」グループに分かれて企画講座を実施予定。

※会場、内容、日程等については現在調整中。

(5) ICT等の新しい技術に関する講座・研修、新しい技術を活用した講座・研修の開催

ア 中級者向けスマートフォン講座

スマートフォンをある程度使用できる中級者を対象とした講座を、市内6カ所の市民センターで実施予定。詳細についてはデジタルイノベーション課と調整中。

イ 市民センター職員研修会

オンライン開催を実施予定。詳細は「1 市民センターへの支援・指導 (1) 東湖塾 イ 全体研修 (ア) 集合研修」を参照。

(6) SDGsに関連した講座の開催

みと好文カレッジ単独で、SDGsに関連した講座を開催予定。詳細については調整中。

(7) 子育て支援講座の開催 令和4年度予算額 205千円（報償費、消耗品費）

ア パパといっしょに夢らんど

家庭教育支援事業の一環として、2歳から3歳未満までの幼児とその父親を対象に、様々な講座を実施することで、子育て中の親同士が出会い、情報交換の場を作り、楽しみながら子育てできるよう支援する。

- 対象者 水戸市在住の2歳から3歳未満までの幼児とその父親
- 日時
パート1 6月4日（土）・6月18日（土）・7月2日（土）
午前10時～11時30分（全3回）
パート2 10月25日（火）・11月8日（火）・11月22日（火）
午前10時～11時30分（全3回）
- 会場
パート1 鯉淵市民センター
パート2 千波市民センター
- 受講者 親子15組（親1名、子1名）
- 参加費 1組300円（材料費として）

○内 容

(パート1)

	テーマ	講師	開催日
1	親子運動遊び	保育士 鯉渕 裕志	6月4日
2	親子アート遊び	子どもアート講師 綿引 真宏	6月18日
3	親子ヒップホップ	ヒップホップインストラクター MEGU & JURI	7月2日

(パート2)

	テーマ	講師	開催予定日
1	親子アート遊び	子どもアート講師 綿引 真宏	10月25日
2	親子運動遊び	保育士 鯉渕 裕志	11月8日
3	親子ヨガ	キッズヨガインストラクター 子安 美穂 ベビーマッサージ協会 渡邊 江津子	11月22日

イ ほっとひといきママたいむ

子育て中の保護者が、子どもと離れる時間を持ち、育児に関するテーマについて学び、他の保護者と意見交換をする機会を設けることにより、リフレッシュするとともに家庭教育について考える一助とする。

○対象者 水戸市在住の乳幼児（就学前）のお子さんをもつ保護者

○日 時 パート1 7月5日（火）・7月12日（火）・7月19日（火）
午前10時～11時45分（全3回）

パート2 9月21日（水）・9月28日（水）・10月5日（水）
午前10時～11時45分（全3回）

○会 場 水戸市総合教育研究所2階 研究室5・6

○受講者 12名

○参加費 無料

○託 児 無料（生後6カ月～未就学児）

○内 容

(パート1)

	テーマ	講師	開催日
1	おやつクッキング	フードインストラクター 軽部 知美	7月5日
2	仕上げ歯みがき	歯科衛生士 伊藤 敦子	7月12日
3	どうするいやいや期	茨城女子短期大学非常勤講師 橋本 祥子	7月19日

(パート2)

	テーマ	講師	開催予定日
1	おやつクッキング	フードインストラクター 軽部 知美	9月21日
2	仕上げ歯みがき	歯科衛生士 伊藤 敦子	9月28日
3	どうするいやいや期	茨城女子短期大学非常勤講師 橋本 祥子	10月5日

(8) 育児ボランティア「えくぼ会」

令和4年度予算額 85千円（報償費等）

ア 前期研修会

育児ボランティア中、事故や災害があった時のために応急手当の具体的な説明、実技「自動体外除細動器（AED）」をとおり、とっさの時に対応できる救命法を学ぶ。

- 対象者 育児ボランティア「えくぼ会」会員
- 日時 第1回 4月28日（木）午前9時～12時
第2回 5月11日（水）午後1時30分～4時30分
- 会場 水戸市福祉ボランティア会館
- 講師 一般社団法人 水戸地区救急普及協会
- 内容 普通救命講習Ⅲ ※主に小児、乳児、新生児対象

イ 後期研修会

会場、内容、日程等については現在調整中。

(9) 国・県・他市町村・企業・NPO等民間非営利団体・教育機関との連携の推進

国や県・他市町村との連携を図り、相互の生涯学習に関する情報を共有するとともに、企業・NPO等民間非営利団体・教育機関と連携し、それぞれが持つ人的・物的資源の活用を図る。

ア NPO法人 ひと・まちなっとわーくとの連携事業「茨城しぐさ」

NPO法人 ひと・まちなっとわーくの講師を活用した出前講座を開催する。詳細は「2 全市的な生涯学習の推進 (1) みと弘道館大学の開催 ア 茨城しぐさ」を参照。

イ ソフトバンク株式会社及び株式会社NTTドコモとの連携事業

ソフトバンク株式会社及び株式会社NTTドコモの講師を活用し、中級者向けスマートフォン講座を開催する。詳細は「2 全市的な生涯学習の推進 (5) ICT等の新しい技術に関する講座・研修、新しい技術を活用した講座・研修の開催 ア 中級者向けスマートフォン講座」を参照。

ウ 明治安田生命保険相互会社との連携事業

市民センターへの支援として、「地元の『公民館』元気プロジェクト」を実施している明治安田生命保険相互会社の講師を活用した講座の開催を市民センターに提案する。

エ 「課題解決チャレンジ事業」に係る実行委員会「チャレンジ委員会」への委員としての参加

茨城県水戸生涯学習センターが設置する「チャレンジ委員会」に委員として参加する。事業実施の目的は、各地域や市町村の抱える様々な現代的・地域課題の解決に向けて、必要な人材の育成や関係団体との連携・ネットワーク構築等を行い、モデルとなる実践的な活動を行うことにある。

(10) 水戸市訪問型家庭教育支援事業

令和4年度予算額 690 千円（報償費等）

核家族化や少子化等による地域のつながりの希薄化等により、家庭教育を支える環境は大きく変化するとともに、家庭をめぐる問題は複雑化しており、社会全体で家庭教育を支援する必要性が高まっている。

本事業においては、家庭でのしつけや子どもへの関わり方等について悩みを抱えているにもかかわらず、様々な事情により相談や保護者向けの学びの場に出てくることが困難な保護者に対して支援を届け、保護者への支援を通じ子どもの育ちを支えていくことを目的にしている。

ア 家庭教育支援員による家庭訪問等の実施

保健師やソーシャルワーカー等の家庭教育支援員（現在6名）が、2人一組で個別に対象家庭を訪問し、家庭教育に関する相談に乗り情報提供を行うほか、必要に応じ専門機関へとつなぐ。平成30年度から未就学児のいる家庭を対象に開始したが、令和2年度から小学校1年生までの児童がいる家庭へ対象を広げた。また、本年度は、モデルケースとして堀原小学校の1年生がいる全世帯（約50世帯）を対象に訪問を行う（10月～11月）。

広報活動については、小学校、幼稚園、保育所等へのチラシ配布やポスター掲示、出生届受理時や3歳児健康診断時のチラシ配布、ホームページやSNSでの情報発信等を継続して行う。また、就学時の健康診断で保護者へ事業案内を実施する。併せて、水戸市立幼稚園園長会、水戸市立保育所所長会議、水戸市民間保育園園長会、水戸市私立幼稚園協議会会議で幼児保育・保育施設職員等へ事業について周知し、必要に応じて幼稚園等で保護者が集まる機会に支援員を派遣する。

イ 水戸市訪問型家庭教育支援推進協議会の開催

元教員や子育て支援団体関係者等6名の委員からなる協議会を設置し、事業の推進方針や家庭教育支援員の活動支援に関すること等を協議する。年2回開催予定。

令和3年度市民センター定期講座事業評価（市民センター総評）

1 受講者の傾向について

- ・ 年齢は70歳以上、男性に比べて女性が圧倒的に多くを占めている（約8割）が、開催時間が平日の昼間が多いことも要因の一つであると推定される。
- ・ 受講期間は長く、10年以上の受講者が約半数を占めている市民センターもある一方、新規の申込者は少なく、受講者が固定化している傾向がある
- ・ 受講を知ったきっかけは、友人・知人からの誘いや、回覧・各戸配布や施設に設置しているチラシによるものが多いが、町内会に入っていない住民が多い地区においては、各戸配布のチラシよりも市ホームページを見て申込み者が多い傾向がある。
- ・ 講座に参加したきっかけは、「内容に興味があった」が一番多く、「通いやすい」、「友人・知人の勧め」、「受講料が手頃」といった回答も多くみられた。講座の内容への興味と、人との交流を気軽に楽しみたいことが、受講のきっかけになっているようだ。

2 参加者の満足度について

- ・ 参加者の満足度については、ほとんどの方が「大変満足している」と「まあ満足している」と回答している。
- ・ 講座の魅力について、約3割が「友人・仲間がいる」と回答しており、内容はもちろんのこと、仲間づくり、人との交流を大切にしている方が多い。
- ・ 「講師が良い」と回答している方も多く、継続するうえで講師との信頼関係も大切な要因となっている。

3 学習成果の反映について

- ・ 市民センターで行っている生涯学習活動は、約9割が自己啓発に役立っていると感じている一方、コミュニティ活動に生かしていると考えている受講者は、約半数にとどまっている。
- ・ コロナ禍により、2年間学習の成果を発表する場が開けず、他の講座の受講者や地域の方と関わる機会がないことも地域貢献の意識の低下の要因の1つと考えられる。

4 アンケート結果又は日頃の業務から考察されることについて

- ・ 受講者の多くがシニア世代となっており、新たな世代の獲得に向けた講座の新規開設が求められるが、子育て世代の時間的余裕がない社会環境も課題となってくる。
- ・ 若い世代及び男性の受講者を増加させるために講座内容を考える必要があり、内容検討のためのニーズ把握及び受講者増のため取り組みが必要である。
- ・ 若い世代や男性が参加できる講座を単発で開催し、そこから定期講座につなげるなど、ニーズを把握するためにも有効な手段であると考えられる。

- ・ 長年続いている講座（クラブ）や人数の少ない講座は、今後サークル化の検討を図る必要がある。
- ・ コロナ禍において、気晴らしや良い運動になっている（出かけられる理由）となっているという意見もあり、退屈や孤独を感じている方にとって、身近で手頃な手段として改めて重要な役割を果たしている。

5 市民センター運営審議会委員の意見

- ・ 幅広い年齢層の方が受講できるよう、曜日や時間帯を検討する必要がある。
- ・ 若い世代や男性を、まずは単発の講座の講師として活躍してもらえるようなことも検討してみてはどうか。
- ・ 固定化が進むと新規受講者が入りづらくなる。また、コロナ禍で定員を半分に行っている関係上、新規募集人数も少なくなると思う。地区によっては、昔から続いているクラブが多く、今後、どのようにクラブをサークルに移行し、新しい教室・クラブを作っていくかが課題となる。
- ・ 新たなテーマを取り入れながら、地域の子どもたちとも交流できるとよい。
- ・ パソコン・タブレット・スマホの講座はぜひ設けてほしい。市民センターで学び、子どもや孫とのコミュニケーションに役立ててほしい。
- ・ 参加の広報はSNSも使った呼びかけも取り入れた方がよいのでは。